

第五次総合計画を策定しました

まちづくりは

次のステージへ

長崎市では、平成23年度から令和3年度を計画期間とする「長崎市第四次総合計画」のもと、「魅力あふれるまち」「暮らしやすいまち」を目指し、市民の皆さんと一緒に、まちづくりを進めてきました。

「100年に一度」の大きな進化の時期を迎えている今、出島メッセ長崎や西九州新幹線の開業、民間事業者による大型事業が進むなど、まちの機能がますます充実していくほか、人口減少や少子化・高齢化など、社会状況が刻々と変化している中で、地域課題を地域で解決できる仕組みなども形になってきています。

そのような中、新型コロナウイルスの影響や、テクノロジーが急速に進歩していることなどを考えると、10年後の社会をはっきりと見通すことは容易ではありませんが、進むべき大きな方向性を捉え、変化に対応しながら前に進んでいかなければなりません。

そのための指針として策定したのが**長崎市第五次総合計画**（計画期間：令和4年度～12年度）です。

めざす都市像

個性輝く

世界都市

「世界都市」とは
魅力あふれるまち
平和、交流、産業などを通して長崎ならではの価値を世界に向けて発信するとともに、長崎にしかできない役割を果たし、世界に貢献することで、「世界のナガサキ」としてキラリと光る存在感のある都市の姿。

希望あふれる

人間都市

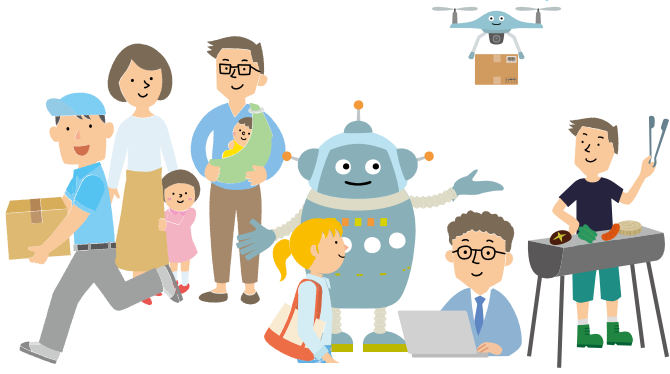
「人間都市」とは
市民が暮らしやすいまち
人間性が尊重され、お互いの個性を認め合い、他者を思いやり支え合いながら、子どもから高齢者までライフステージに応じて誰もが豊かで生き生きと、幸福に暮らせる都市の姿。

まちづくりの基本姿勢

つながりと創造で新しい長崎へ

市民の皆さんがお互いにつながることで、まち全体がネットワーク化し、文化や産業などの長崎市が持つさまざまな価値を高めながら、世界にも通用する新たな価値や仕組みを創造していくという姿勢でまちづくりを進める。

産業がもたらす活力と技術の進歩を取り入れ
生活の質が高まっています



- 産業が元気に！就きたい仕事が増えている
- テクノロジーの普及で、より快適で便利な暮らし
- それぞれのライフスタイルに応じ、余暇の過ごし方などの選択肢が充実
- 地域や企業も一緒になつて、安心して子どもを産み育てられる仕組みが充実

みんなであつて
暮らしやすさをつくり続けています



- ご近所の住民同士や地域の中にあるさまざまな団体、事業者などのつながりが深まり、さらに安心して居心地のよいまちへ
- 道路や公園の整備が進み、まちがより快適で安全に
- コンパクトにまとまった各地域がつながつて、お店や病院などが暮らしに必要な施設が使いやすい

めざす 2030 年の姿

世界都市・人間都市は、とても遠くにある北極星のような目標なので、第五次総合計画では、9年後の2030年までにめざすまちの姿をイメージしやすいように4つのテーマで表現しました。

平和な世界、持続可能な世界の
実現に貢献しています



- 被爆の実相の継承や核兵器廃絶に向けた活動が進展
- 市民一人ひとりが身近なところから平和について考え、行動している
- 多様性が尊重され、思いやりと優しさがあふれている
- 医学や環境など、いくつかの分野で世界に貢献している

交流の歴史に培われた多様な魅力で
人を惹きつけています



- 歴史や文化、景観、自然の魅力がさらにアップ
- 新たな「学び」「楽しみ」「ビジネスチャンス」がいっぱい
- 最先端の学術研究や一流のスポーツ、芸術文化が身近に
- 市民や訪問客も楽しめるおいしい食や楽しい体験が充実

「めざす 2030 年の姿」を実現するために、8つのまちづくりの方針を定め、令和4年度から令和7年度までに取り組むべき施策を「前期基本計画」としてまとめました。詳しくは、市ホームページ、地域センター、市立図書館、市政資料コーナー（市役所本館1階）、都市経営室（市役所本館4階）で。



市ホームページ

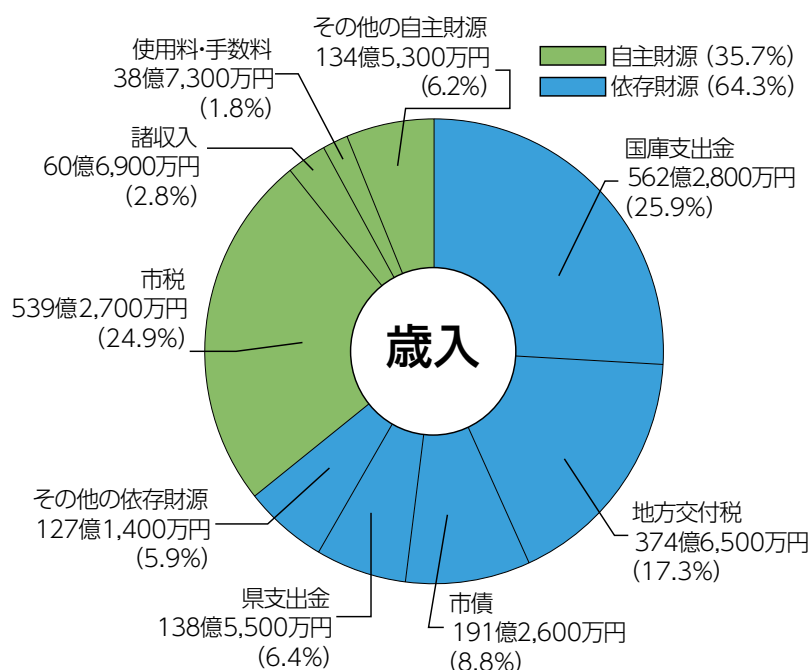
令和4年度

予算と取り組み

令和4年度は、第五次総合計画に掲げた「めざす2030年の姿」の実現に向け、未来を創造していくための予算を編成しました。

今回は、長崎市が抱える喫緊の課題や社会を取り巻く重要な変化にしっかりと対応していくための「コロナ禍からの社会・経済の復興」「人口減少克服・長崎創生に係る取り組み」「官民挙げてデジタル化の加速による暮らしやすさの向上」「ゼロカーボンシティの実現に向けた取り組み」といった4つの重点的な取り組みに加え、「西九州新幹線開業に向けた取り組み」や「被爆100年に向けた平和の取り組み」などを中心に令和4年度の予算を紹介します。

2,167億1,000万円



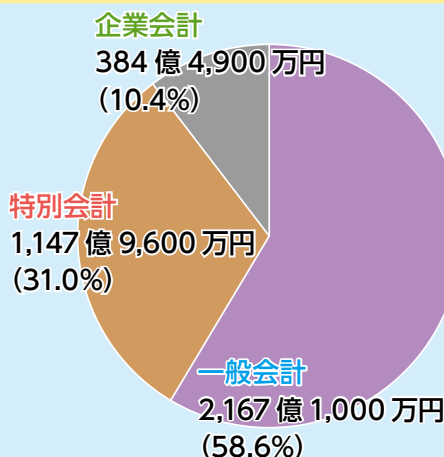
※金額は10万円単位で端数調整をしているため、合計が一致しない場合があります。

特別会計

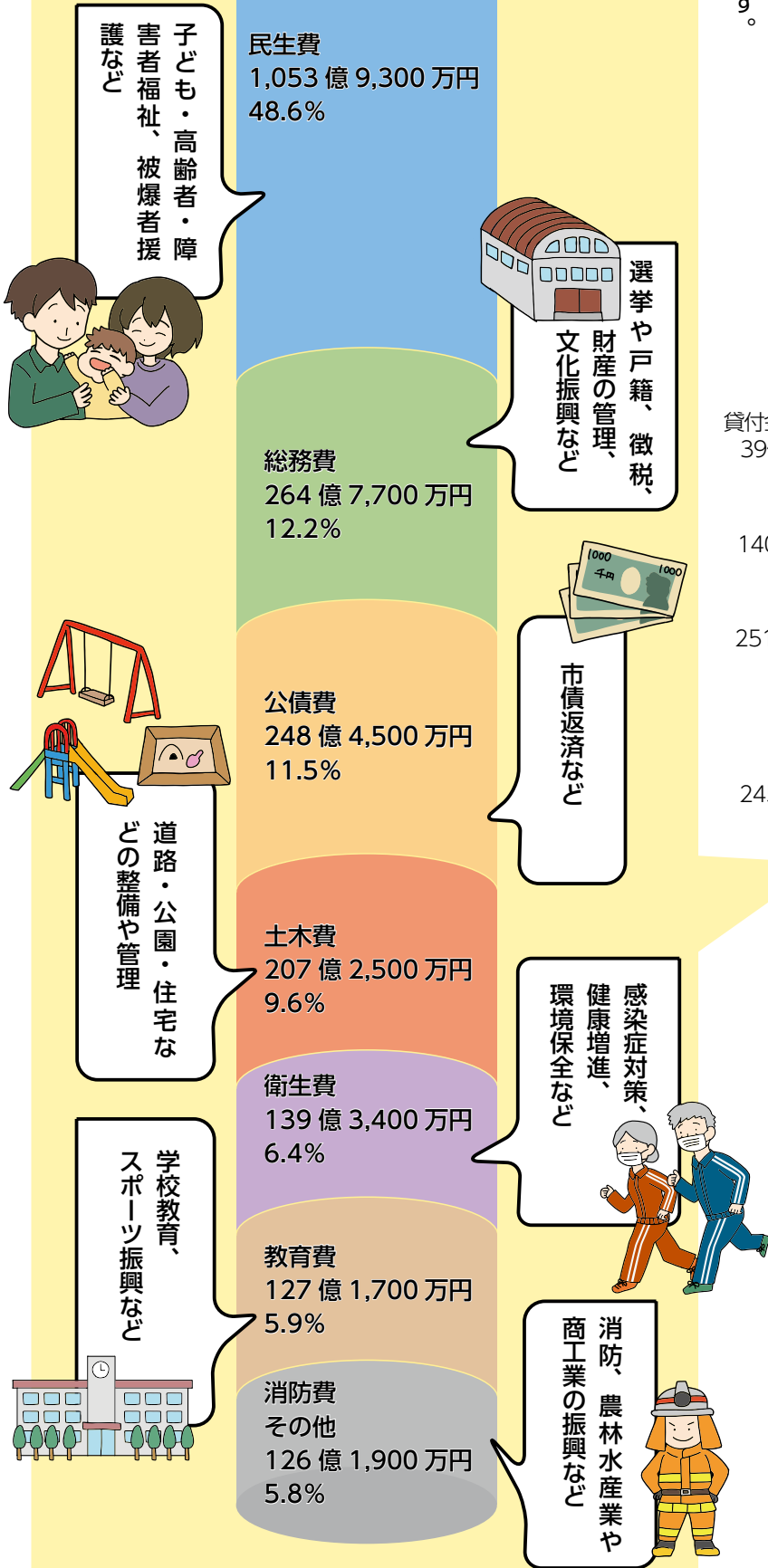
一般会計のほかに、特定の収入（保険料や使用料など）で、その事業の支出を賄う会計です。

企業会計

それぞれの事業の収益（使用料など）で支出を賄う独立採算が原則の会計です。



歳出を目的別に見てみましょう



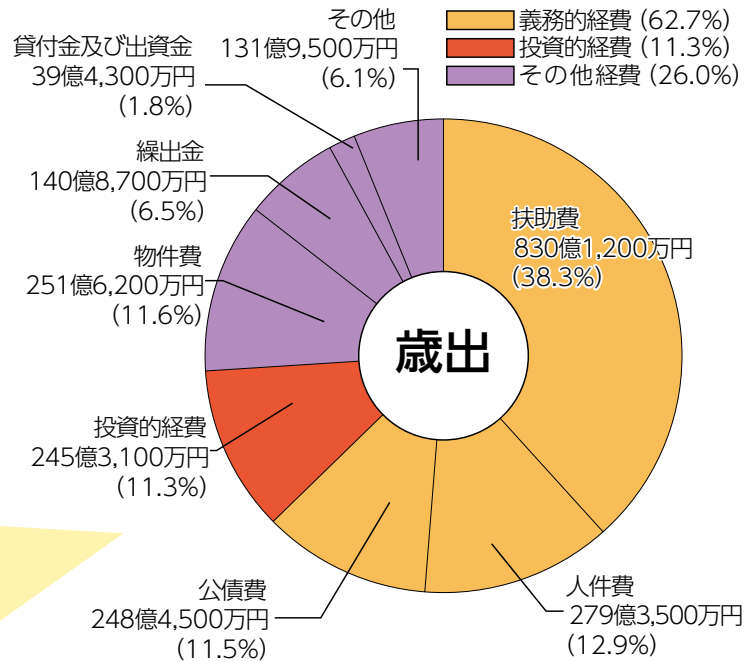
歳入

市が自ら確保できる市税などの自主財源が35・7%で、残り64・3%は国・県からの補助金や地方交付税、市債（市の借金）などで賄われます。

歳出

扶助費（福祉関係の経費）や人件費、公債費（借金返済）などの義務的経費が全体の62・7%を占めています。学校・道路の整備などの投資的経費は11・3%となっています。

一般会計 総額



特別会計と企業会計



な取り組み

コロナ禍からの社会・経済の復興

いまだ収束の気配を見せない新型コロナウイルス感染症への対応は、「感染拡大防止対策」「社会経済対策」「ポストコロナ対策」の3つの方針のもと、1月・2月の補正予算と当初予算を合わせた15カ月予算により取り組みを拡充していきます。

新型コロナウイルス感染症対策

9億6,494万円

相談窓口の設置やドライブスルー方式の検査センターの運営、PCR検査等費用や陽性者の入院医療費の負担、自宅療養者のサポートなどを引き続き実施します。

芸術文化活動再開応援補助金

8,885万円

コロナ禍で影響を受けた芸術文化活動の再開を支援します。



人口減少克服・長崎創生に係る取り組み

「若い世代に選ばれる魅力的なまち」を目指して、次の目標に向けて事業を展開します。

- 経済を強くし、新しいひとの流れをつくる
- 子どもをみんなで育てる子育てしやすいまちをつくる
- 「まちの形」と「まちを支えるしくみ」をつくる
- 交流の産業化

子育ての環境を充実する取り組み

5億5,556万円

あぐりの丘に全天候型子ども遊戯施設の開設、長崎東公園に子どもの遊び場の整備、市内3カ所に子育て支援センターの開設・移転などを行います。

新産業の創出に関する取り組み

4,488万円

オープンイノベーションに関する組織横断的な支援、起業を目指す人材の発掘・育成などといった土壌づくりを目的としたスタートアップ支援などを行います。



全天候型子ども遊戯施設（イメージ）

西九州新幹線開業に向けた取り組み

9月23日に開業する西九州新幹線の開業効果を最大限に引き出すため、「市民の気運醸成」「誘客促進」「市内各地への周遊促進」「訪問客の満足度向上」「産業の振興」の5つの方針に沿って取り組んでいます。

新総合観光案内所整備

8,600万円

改札口のすぐ横に九州最大規模の観光案内所を整備します。そこでは、多様な観光情報を多言語で提供できるスタッフを配置し、宿泊の予約も含め、ワンストップサービスを提供します。



4つの重点的

官民挙げたデジタル化の加速による暮らしやすさの向上

人口減少、コロナ禍で急速に進むデジタル社会に対応し、住む人も訪れる人も、もっと快適で楽しめるまちになるために、「暮らし」「交流」「行政」の3つの領域において、「人」が主役のまちづくりをデジタル技術で加速させます。

スマート市役所の基盤づくり

1億7,689万円
行政手続きのオンライン化や総合窓口の整備を進めます。

子育て世帯をサポート

2億2,065万円
民間保育所のICT化の推進や、パソコンを活用した家庭学習について安全・安心な環境の提供に努めます。



新市庁舎（2月末時点）

ゼロカーボンシティの実現に向けた取り組み

大きな2つの軸として「脱炭素ライフスタイルの転換」と「再生可能エネルギーの活用によるエネルギーの地産地消の拡大」を掲げ、「ゼロカーボンパッケージ2022」を取りまとめ、2050年に向けて取り組みを加速させます。

脱炭素ライフスタイルへの転換

2億2,526万円
急速充電設備の整備（2か所）などを実施します。

再生可能エネルギーの活用による

エネルギーの地産地消の拡大
5,093万円

新市庁舎へのRE100電力の供給開始などを行います。

※「ゼロカーボンシティ」とは、2050年までに二酸化炭素の排出を実質ゼロにすることを目指す自治体



急速充電設備



被爆100年に向けた平和の取り組み

3,172万円
被爆者のいない時代になっても、被爆地長崎が使命を果たしていくため、被爆者の声を聞ける今しかできないことや、今のうちに準備しておかなければならないことをスピード感を持って取り組みます。



遠藤周作生誕100年



2,014万円
来年3月27日に遠藤周作生誕100年を迎えることから、令和4・5年度を「遠藤周作生誕100年」の記念の年とし、遠藤文学の魅力を広く伝え、その功績を称えながら、次世代につなげていきます。